

2018 年度
学校関係者評価委員会告書

A d a c h i 学園
専門学校東京デザイナー学院

2019 年 3 月 31 日作成

はじめに

2018年度の自己点検・自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会が調査・分析し、以下の通り「2018年度 学校関係者評価 結果報告」をまとめました。

今年度は、年度末も押し迫った時期の開催となり、ご協力頂きました委員の皆様には誠に感謝致しますとともに、本報告書をより良き学校運営の一助としてご活用頂き、学校が益々発展させます事を委員一同祈念致します。

学校関係者評価委員

委員長	黒田 邦男（東京デザイナー学院 学校長）
副委員長	秋月 久美子（デザイナー / 卒業生等）
委員	藤原 亮二（有限会社藤原アイアンクラフト）
委員	阿部 賢吉（レモン画翠 / 地域等）
委員	佐々木龍郎（東京建築士会 / 業界団体等）
委員	菅野 修（東京デザイナー学院 学務部）
事務局担当	有賀 史彦（東京デザイナー学院）

1・学校の教育目標

●業界で活躍できる人材の育成・輩出

『ゼロからプロになる』ための『人間力』を引き出す

●東京デザイナー学院が求める人物像（アドミッションポリシー）

感動力を持つ

果敢にチャレンジする

自分らしさを育む

2・本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

●就職

本年度の実績として

- ・ 就職希望率 93.8%
- ・ 就職決定率 94.4%

本年度実績を踏まえた目標

- ・ 就職希望率 95.0%
- ・ 就職決定率 100%

●進級継続

本年度実績として

- ・ 1年次から2年次へ 87.3%
- ・ 1年次から卒業へ 86.9%

本年度実績を踏まえた目標

- ・ 1年次から2年次へ 87%
- ・ 1年次から卒業へ 86%

3・評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	④	3	2
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	②	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

- i 各学科とも産学協同を積極的に取り入れている点は評価できるが、学生・保護者に対する情報開示が適切になされていないように思える
- ii 最近は中学校・高等学校でもHPによる情報公開が進んでいる。いじめの実態など、学校にとって隠しておきたい部分も、包み隠さず公開されており、これが本来のあるべき情報公開の姿なのではないかと感じた
- iii HP全体が若者向けに作られているので、保護者が見てどう思うか?という視点が抜けている

② 今後の改善方策

- i 情報開示については、引き続き準備が整ったものから開示を進めていく。また、学生・保護者に文書等で周知を進める。
- ii 開示される情報の範囲については、再度学内で検討する。
- iii HPのデザイン、掲載されている情報について、今後検討し見直してゆく。

③ 特記事項

なし

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	②	1
・情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	③	2	1

① 課題

- i 教育活動に関する情報公開は、まだ全ての学科の、全ての教科のシラバス公開にまでは至っていない
- ii 校舎への入館に際してのセキュリティが、現在は完全にフリーで、誰でも簡単に入館できる状況である
- iii 騒音・喫煙など地域住民からの苦情に対応する体制が十分に定まっていない

② 今後の改善方策

- i 現在、全学科のシラバス公開に向けて準備を進めている。引き続き改善を図っていく。
- ii 校舎の構造上の問題もあるので、主に御茶ノ水本校舎を中心に入館・退館の管理について検討していく。
- iii 苦情対応のフローチャートを作成し、職員に徹底。そのような苦情が来て、どのように対応したかの記録を残す。

③ 特記事項

なし

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	③	2	1

・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1
-------------------------	---	---	---	---

① 課題

- i 今回、評価をするに際し最も見えにくい部分だった。学校の自己評価を信用するしかなく、より適切な形での情報開示が必要
- ii 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携は、学科によって進捗に差が生じている
- iii イラスト、マンガ、ファッションなど1年毎に傾向が変わるような業界は、どうやって最新の動向をカリキュラムに反映させていくのかに課題が残る
- iv 就職後、どのような仕事に就いているのか、持続年数は、業務において学院での教育が役に立ったこと、逆に教育メニューとして不足していること、などを把握してはどうか

② 今後の改善方策

- i 教育活動についての情報開示が不十分であることが判明したため、今後は学校関係者評価委員に授業を見学していただくといった機会を設けるなどの対策を検討したい。
- ii 学科による不均衡の是正を図る。連携する企業、業界団体の選定を学科長に一任するのではなく、学校として組織的に相応しい企業、団体を選出し、各学科との授業連携を推進する。
- iii 学生・教員が常に最新の業界動向に触れられるような環境を整えていく。具体的には業界誌の定期購読、教員の研修機会の充実を図る。
- iv 卒業生へのヒアリング、及びカリキュラムへのフィードバックは、まだ学校として着手できていない部分である。今後、学内で検討したい。

③特記事項

なし

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・就職率の向上がはかられているか	④	3	2
・資格取得率の向上がはかられているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- i 全ての学生が就職を希望している前提で指導をしているが、例えば起業を希望する学生がいた場合、そのニーズに応えているのか
- ii 卒業生と交流を図り、その活躍を知る場として、校友会組織があるが、有効に活用できていない印象を受ける

② 今後の改善方策

- i 学生の起業という選択肢が、業界その他のニーズに沿っているかどうか、といった点も含め、学校として検討を始める。
- ii 卒業生は学校の財産であり、業界で活躍する卒業生を有効に活用はすることは、今後の学校運営の大きな課題である。まずは卒業生組織としての校友会を有効に機能させるべく、運営のテコ入れを図る。

③ 特記事項

なし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援はおこなわれているか	④	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4	③	2	1

① 課題

- i 在校生の保護者を対象とした保護者会の実施を検討してみてもどうか

② 今後の改善方策

- i 保護者のニーズを鑑みて今後、検討する。

③ 特記事項

なし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	②
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- i 設備の老朽化が進んでおり、整備が間に合っていない。「雨漏り注意」や「使用中止のトイレ」が、修繕されずいつまでもそのままになっている。その他、空調設備の不調も目立つ

② 今後の改善方策

- i 老朽化した設備の整備・交換は、予算面での都合もあり、優先順位を付けて順次進めている。トイレなどの水回り関連の修繕は優先して進めるようにしている。

③ 特記事項

なし

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
・学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- i デザイン業界の厳しい部分について、HP で正確に伝えられていないようだ
- ii 高校内で開催されるガイダンスは、学生募集に有効だと思うので、もっと機会を増やしてはどうか

② 今後の改善方策

- i 業界の良い面と厳しい面の両方を正しく伝え、学生にも保護者にも理解していただけるような HP に少しずつ改善を図っていきたい。
- ii 今後、高校訪問に専従するパートタイムスタッフを採用し、高校内ガイダンスの実施回数の増加を図る。

③ 特記事項

なし

(8) 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

なし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	②	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

i 学生たちに、自分や他人の個人情報を扱う上での注意点などについての教育を行っているか？

② 今後の改善方策

i 今後、個人情報の扱いについて、学生を対象とした個人情報の取り扱いについての研修の導入を図る。SNS等の利用についても、その中で扱う。

③ 特記事項

なし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

(1 1) 国際交流 (必要に応じて)

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	③	2
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	④	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	②	1

① 課題

- i 留学生の受け入れに関しては、適切な比率があるのではないか。クラスに数人であれば良い刺激になるが、留学生がクラスの半数近くになると日本人・留学生の双方にとってデメリットが生じるのではないか

② 今後の改善方策

- i 留学生の受け入れについては、適正な人数を超えないよう、学校として留意していく。学生募集に際しても、適正な人数比率を維持できるよう、随時調整を図っていく。

③ 特記事項

4・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

●情報開示

開示する情報の内容だけでなく、見てもらうための工夫も必要。現時点では、まだ情報が公開できているというだけであり、見やすさ、伝わりやすさが、二の次になっている感がある。外部の人間に見ていただくという視点で、今後の改善が望まれる。

●校友会の活用

学校の財産である、卒業生の情報を活かさきれていない。卒業生の情報集約を担う機関として、校友会が相応しいが現状、うまく機能していないため、今後のどのように校友会組織を動かしていくか、検討を望む。

●環境整備

校舎の老朽化が進んでおり、教育の場としての環境整備が追い付いていない部分がある。予算面での制約もあり、難しい面もあるだろうが、いつまでも「故障中・使用禁止」といった貼り紙を貼っておくような状況は、やはり教育環境としては相応しくない。早期の対策と改善を求める。

●就職率の向上という面では一定の成果を上げているようなので、進級継続率の向上にも尽力していただきたい。

以上

学校関係者評価委員

委員長	黒田 邦男（東京デザイナー学院 学校長）
副委員長	秋月 久美子（デザイナー / 卒業生等）
委員	藤原 亮二（有限会社藤原アイアンクラフト）
委員	阿部 賢吉（レモン画翠 / 地域等）
委員	佐々木龍郎（東京建築士会 / 業界団体等）
委員	菅野 修（東京デザイナー学院 学務部）
事務局担当	有賀 史彦（東京デザイナー学院）